

ルーペの向こうの共生社会 新刊絵本『ゆうこさんのルーペ』トークイベント

本の街として知られる東京・神保町の神保町ブックセンターでは、様々な立場の当事者や支援者、専門家を招き、共生社会を実現するためのトークイベント【本の街で、こころの目線を合わせる】を2019年から開催している。1月29日に行なわれた『ゆうこさんのルーペ』から見える「関心」と「無関心」は、絵本『ゆうこさんのルーペ』（合同出版）の刊行を記念したもので、著者の多屋光孫^{たやみつひろ}さん、原案を担当した はが ゆうこ（芳賀優子）さん、監修者の ふじい かつのり（藤井克徳）さんが招かれた。コロナ禍の影響を受け、オンラインで開催され、約80人が参加した。（本誌）

気持ちが変わる絵本

『ゆうこさんのルーペ』の主人公「ゆうこさん」は、先天性の視覚障害者で、いつも「ルーペ」を使って大好きな本を読んでいる。たまたま、ゆうこさんのルーペを見た「はやたくん」は、そのルーペに関心を持って貸してもらおう。不思議なルーペを通して見えたものとは……。 「実話をもとにした」「子どもといっしょに『障害』を身近に考える絵本」である（カバーの紹介文より）。

原案の芳賀さんは、先天性のロービジョンで、財団法人共用品推進機構の活動に参加している。監修の藤井さんは全盲で、NPO法人日本障害者協議会代表、日本障害フォーラム副代表、きょうされん専務理事を務めている。著者の多屋さんは、絵本